

活動内容	(題) 子どもたちを取り巻く喫緊の課題について対応の方法を学ぶ
	学級名 玉山中学校
	学級担当者 乳井 明子

1 学級の組織ならびに学習のねらい及び重点

- ・ 構成員 玉山中学校教職員、生徒、保護者、玉山地区青少年健全育成会、玉山地区学校保健会、玉山地区公民館
- ・ 学級の運営組織 玉山中学校、玉山地区青少年健全育成会、玉山地区学校保健会、玉山地区公民館
- ・ 学習のねらい、重点

情報機器端末の普及により増加しているトラブルの未然防止東日本大震災からの復興に努力する人たちの考え方を知るとともに、直面する可能性がある防災について、判断力の大切さを知る機会とする

2 学習計画と活動の状況

	日 時	講 話 題	講 師 (職・氏名)	参加人数
1	11・11 (土)	防災～そのとき自分はどうするか～	岩手県教育委員会 生駒 大輔 氏	35名
		内容 東日本大震災避難所生活での経験から、自助・共助・公助の気持ちを学ぶ。 土砂災害等における判断力の大切さを学ぶ。	感想等 玉山小・中学校、玉山地区青少年健全育成会、玉山地区公民館の共済事業として玉山中学校体育館で行われた。東日本大震災避難所の記録VTRを観たり、災害の際に起きうる状況について、他社と相談したことを発表したりする場面が織り込まれ、充実した時間となった。	
2	11・12 (土)	スマホ・ケータイ教室	NTT 村野 哲郎 氏	20名
		内容 SNS の間違った使い方によるトラブル例とその対応方法について	感想等 玉山中学校生徒、教職員を対象にオンラインで実施した。SNSの使い方や具体的なトラブル例について共通理解を図ることができた。生徒の発言の機会もあり、集中して話を聞くことができた。	

3 成果及び今後の課題

(1) 成果・コロナ禍にあって工夫したこと

- ・ 現状の課題に対するタイムリーな内容であった。
- ・ コロナ対応については、手指消毒に加え、換気を行うこと等の基本的な感染防止対策のみを行った。

(2) 今後の課題

- ・ もっと地域の参加者を増やし、学校で考えていることや課題と感じていることなどの共有を図りたい。
- ・ 小中合同での実施や地域団体との共催で運営しているが、生徒数・世帯数の減少により規模が縮小している感がある。

(3) その他 今後の「学びのつどい」の在り方に関すること等